

## 岡本の国会での答弁

176-衆-決算行政監視委員会-2号 平成22年11月16日

○平(将)委員 私は自民党ですけれども、事業仕分けは大いにやるべきだ、賛成の立場だというのは大臣も了解をいただいておりますが、これは民主党政権で始めた事業でもありますけれども、こういう事業仕分けを受けて、厚労省の方ほどのようにお考えか。岡本大臣政務官が来られておりますので、岡本さん、よろしくをお願いします。

○岡本大臣政務官 今、平議員から御指摘のありました紙台帳とコンピューター記録との突合につきましては、御本人がお気づきでないコンピューター記録の漏れや誤りを国の側で見つけよう、そして年金記録の回復につなげていこうという大変重要な取り組みと理解をしております、先日、十月二十八日の事業仕分けの議論において、本事業の重要性について御理解をいただいたと考えております。

しかしながら、その効率性について徹底的な努力が必要だという観点から、予算要求は圧縮との評価結果が出されたものと承知をしております、我々としなくても、事業の正確性を保ちつつ、さらなる効率化を図っていくという具体的な方策についてよく検討し、民主党のマニフェストに沿った取り組みを進めていく考えでございます。

○平(将)委員 今、蓮舫大臣から、この事業に対して経費の二割程度削減という事業仕分け結果が出たということであります。

我々も事業仕分けを構想日本とやってきて、きのうもちょうどニコニコ動画で慶応の土居先生と議論をさせていただきました。我々も事業仕分けをやりましたが、よく二割削減とか半分程度削減とか出てきますが、この根拠というのは何なんですか。ちょっとよくわからないので土居先生にも聞いてみたけれども、土居先生は土居先生なりのことを言っていました、大臣、御見解を。

○蓮舫国務大臣 まさに仕分けの作業というのは、事業の理念や目的は否定しておりません、手段をどのように効率化できるか、費用対効果を少ない予算で実現することができるか。その割に、めどとして何割削減を評価結果としてまとめさせていただくことが多いんですが。

今回の紙台帳とコンピューター記録の突合の作業なんですが、ここにおいて細かな議論をした評価結果を見てみますと、例えば総合評価方式というのが契約の手法としてとられている。これを純粋に一般競争入札にすればいいものではないとは思っているんです。もちろん突合作業自体が非常に大切な重要な役割ですから、クオリティーといいますか質というのが大切なのは、我々は否定しておりません。

ただ、この総合評価方式の評価点数なんですけれども、突合作業の場所が大都市を要件とすると高くつくとか、あるいは、これまでの実績、過去にも社会保険庁から、今は日本年金機構ですけれども、社会保険庁から類似の突合作業の受注を受けた企業に点数が高くつくようになっているとか、全体的に見てやはり一割から二割程度は、かさ上げされているという表現が正しいのかどうかわかりませんが、絞ることが可能であるというのが評価者の一致した意見、それを重立った評価結果にまとめさせていただいているところでございます。

○平(将)委員 今の説明も合理的とは思いますが、なぜそれが何割削減に直接つながるのかというのはちょっとよくわかりません。

今回議論になったのは、別に都心でやることはないじゃないか、地方でやれば人件費も安いでしょう、家賃も安いでしょうということかと思いますが、逆に言えば、私はいろいろな会社の経営とかやってきましたけれども、地方に置くときに、紙台帳と突き合わせをするわけですから、紙台帳を運

ばなきゃいけないですね。そこでまた粗相をして、台帳をなくしちゃいましたなんということになったら目も当てられないので、その辺のリスクをどう考えるかということもあるんだと思います。土居先生は費目ごとに全部見ていると言っていましたけれども、やはりその程度の精度、あと全体のリスク、そういったものが必要なんだと思います。

厚労省にお伺いをしますが、二割削減と言われたわけですが、これは今後大きな予算もかかりま  
すし、膨大な作業が見込まれているんだと思います。これは、そもそもどのぐらいの時間とお金を  
かけてやる予定だったのか。そしてさらには、今回、二割削減という結果が出ましたけれども、今後  
の展開に影響はないんでしょうか。

○岡本大臣政務官 今回の紙台帳とコンピューター記録の突き合わせについては、この四年間、  
衆議院の任期の中で全件突合を目指していくという中でありますが、特にこの二年間に集中的に  
その解決を図っていきたいというふうには考えています。

先ほど平委員の方から御指摘がありました、例えば場所の問題についても、紙台帳自体はもうコ  
ンピューターの中に入っていますので持って歩くということではないんですが、ただ、地方でこの  
事業をやった場合には、そこで人が本当に集まるのか、山の中でやって人が集まるのかといっ  
たら、それについての問題点があるでしょうし、また評価方法、例えば場所を変えていく、その変  
更することのコスト、もう始まっちゃいましたから、今度、別のところにしましょうといったら  
そのときにコストがかかるとか、いろいろあると思います。

しかしながら、先ほどからお話をしておりますように、事業の正確性を保ちつつ効率化を図る  
ことは大変重要だと考えていますし、また、今回の指摘を受けていることもありまして、我々  
として、この議論の結果を踏まえて本当に真剣に考えなければいけないというふうに  
考えていますし、けさもその話をしたところでございます。